

2000  
平成12年

- 2000 2 ・ひかり作業所5年間のあゆみを紹介するため吳郵便局で「きらりん展」開催する。  
5周年を記念して「きらりんめ～る」創刊号をだす。
- 3 ・バス旅行 しまなみ海道へ。
- 6 ・所長及び指導員3名の体制となる。
- 7 ・ポートピアパーク内に福祉ショップオープン。吳市内の施設、作業所で運営にあたる。
- 10 ・バス旅行 しまね海洋館アクアス&香木の森へ。
- 12 ・第6回ふれあいコンサート参加

吳郵便局で ひかり作業所5周年記念  
“きらりん展”を開催。



ハーブの香りを楽しみました。香木の森にて！



“きらりん展”  
多くの来場者が  
ありました。



ポートピアパーク内に福祉ショップがオープンしました。  
吳市内の作業所の手づくりの品々がここで買えま～す！

# 2001

平成13年

- 2001 3 ・作業所の法人化について話し合いがもたれ 法人設立委員会が発足。  
・バス旅行 島根県ホテル川湯へ。（宮指導員さんの歓送迎会）  
4 ・家族会による法人設立の為の資金集めとして 積立金を始める。  
7 ・仕事づくりとして ふれあい会館内に自動販売機を設置し維持管理をする。  
11 ・バス旅行 ドイツの森クローネンベルクへ。  
12 ・第7回ふれあいコンサート参加



宮指導員さんの歓送迎会。  
お別れは悲しいけれど  
歌って、踊って、  
今日は楽しい一日となりました。



記念品贈呈。  
みんなで、色紙にちぎり絵をはりました。  
この絵を見て、ひかりを思い出してね。  
涙・涙・涙。



ゆうこ＆ジョージの名（迷？）コンビによる  
コントタイム。笑、笑、笑。

**2002**  
平成14年

- 2002 2 ・施設見学 にじのえき～広島市植物公園へ。

4 ・自助グループ活動「オープンスペースこもれび」を毎月第1水曜日に開く。

7 ・地域交流としてふれあい会館を中心にふれあい七夕祭りをおこなう。

9 ・県へ社会福祉法人設立認可申請書一式提出。

11 ・バス旅行 帝釽峡へ。

12 ・第8回ふれあいコンサート参加

・広島県社会福祉審議会社会福祉法人審査専門分科会の審査の結果 審査が通過したことを確認。

## 帝釈峠にて



A group of approximately ten people are gathered around a barbecue grill outdoors. In the foreground, a man in a white shirt and light-colored pants is focused on cooking various items like chicken wings and vegetables on the grill. To his left, a woman in a dark apron and a patterned vest is holding a tray of food. Another person is visible in the background near a body of water. The scene suggests a casual outdoor meal or picnic.

恒例、狩留賀で  
バーべキュー



ふれあいコンサート  
打ち上げ

2003  
平成15年

- 2003 2 · 県へ社会福祉法人申請書最終案を提出。  
3 · バス旅行 安佐動物公園～ガラスの里へ。  
4 · 社会福祉法人ふれんずの県知事からの認可書を受理。  
　　広島法務局呉支局へ登記申請をする。  
5 · 社会福祉法人ふれんず創立記念式典をおこなう。  
　　・社会福祉法人ふれんず創立記念誌を発行。



法人認可受理後、  
作業所内でささやかな  
お祝いの会を開きました。



社会法人ふれんず  
第1回理事会・評議員会の様子。

# Four Season

部谷 好昭

春になれば 草木も芽吹き  
生きとし生けるもの 愛を語り始める  
この地面の上で 命が誕生する  
嗚呼 この素晴らしい地球よ

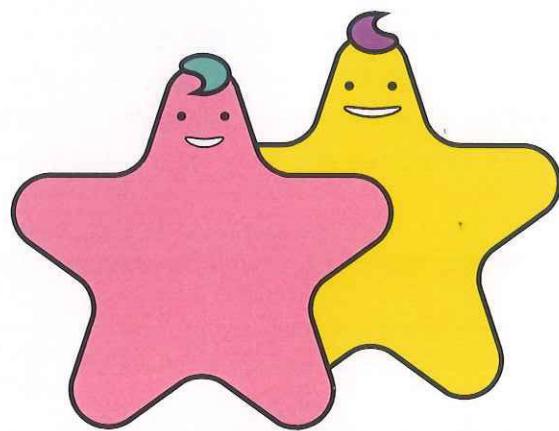
夏になれば 太陽も輝き  
生きとし生けるもの 生を謳歌する  
この地面の上で 命の芽が咲く  
嗚呼 この素晴らしい大地よ

秋になれば 稲穂も実り  
新しい命が 交代し始める  
この地面の上で 命が結実する  
嗚呼 この素晴らしい地球よ

冬になれば 大地も凍り  
生きとし生けるもの 次の春を待つ  
この地面の下で じっと我慢する  
嗚呼 この素晴らしい大地よ

「そして再び春になって  
生きとし生けるもの  
愛を語り始める  
この素晴らしい地球を大切に！」  
「————」 r e f r a i n

ひかりのなかで…



ひかり作業所  
**メンバー隨想集**

## ひかりの中で



仲西 信敏

わたしは、孤独だった頃、薄明という言葉をよく使ったものだ。保健所のソーシャルを経て、ひかり作業所に通いだして、もう五・六年は経つ。回復期特有の爽やかさの中、作業所を通して、呉や広島を徐々に知っていった感じがする。当初はいろんな人々と話をしたかった。

就労支援を受けたが、働きず、今は、自助グループ「こもれび」をみんなとやっている。五十歳をひとくぎりしたいので、自助グループ育成の勉強会をそれまでに終わらせたい。そして、図書館の詩の会へまた行ってみたい。ひかりも法人化する。これを機会にどんなひかりにしたいか、もっとみんなが話し合えるとよい。今までのことから言えることは、無年金者をなくすことと、就労の受け皿作りを要望しないことには、いくらひかりのメンバーと指導員さんががんばっても、空転におわると、わたしには思える。ひかりは、所長、指導員さんの人柄のよさで、なんとかもってきたのだと思える。わたしも、自分で解決できない妄想を延々聴いていただき、日頃から感謝している。この度、ひかりが社会福祉法人「ふれんず」になるということだ。めでたいかぎりだ。自助グループがしっかり機能して、こもれびのメンバー制限の枠が、とっぱらわれる日を楽しみに、わたしの感想を閉じたい。明るいひかりの中で。

## 障害者という言葉



大原 恵子

みんな生まってきた時は、それぞれ顔が違うように、障害を持って生まれても一人ひとりの個性だと思う。私達心の病になった人達は生まれた時は健常者で、親に期待され、育てられた。親も夢を持ったと思う。しかし、病気になった途端に障害者と言われてしまう。他の病にかかった人達は障害者とは言われない。胃潰瘍の人達は痛いだろう。それは症状だ。私達心の病も独特の症状が出る。でも症状が出た時は、本人が一番つらい。親も苦しいかもしれない。でも世間に気兼ねして生きるのは間違いではないか。そして隠そうとする。恥ずかしいと思ってしまう。本人にとっては自分はそんな病になったのかと、ショックが大きいだろう。しかし、親次第だと思う。私の子供は心の病になったけど、こんないい所もある。そして優しい所もいっぱいあるのよと言って欲しいし、そしてみんなで助け合いながら社会生活を送ろうではないですか。ノーマライゼーションを大切に。

私の主治医曰く「一喜一憂」私も同感です。「先生、私は長い間平安を求めて旅をしてきたような気がします。」少し前に主治医と心理療法師に手紙を書いた事があります。

=今までが序曲なら、これからはいいオペラの終幕にしたいと思います=



## 私の所感

高松 重利

思えば、20歳をこえた頃から日本の事が心配になり、いろんなことをやってきましたが、最近この国の国民は、自分さえよければ良いという風潮で、こんな国民のために頑張ってきたのかと思い、大学を卒業して、船に乗っていれば良かったなと思う最近であります。まあこれまでやってきたことは、無駄にはなっていませんが、これからは、弱い立場の人達のために働いていこうと思っています。もちろん自分が人に迷惑をかけないように生きてゆくのも大変ですが、50歳になった私は、これから的人生をこういう風に考えています。ひかり作業所とは、一つの出会いがありました。所長さんはさばけているし、いつも明るく、楽しくさせてください。若宮さんは少しきびしくはありますが、思いやりのある出口さんや、課長とまではいきませんが、係長のような山田さんがおられ、いつも楽しく作業所に通っています。

私も実社会で、7・8年ぐらい働いたことがあるのですがひかり作業所の人達との出会いは、人生のいい出会いであります。この年になっても夢をもっていますが、その夢を実現させる準備段階として、この作業所のメンバーみんなが食べていけるようになるように、私も頑張ってみたいと思っている今日であります。簡単ですがひかり作業所が法人化されるにあたっての私の所感とさせていただきます。



ファイト!



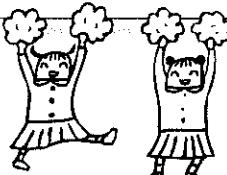
## ひかり作業所にお世話になって

波谷 政彦

私が、ひかり作業所にお世話になって約二年半がたちます。いろいろなことがありました。みなさまには大変お世話になりました。私もひかり作業所の皆様、一人ひとりに助けられたような気がします。ここに来なかつたら今の自分はなかつたと思います。ほんとうに楽しい毎日であります。今までやってきた経験を土台に、これからもいろいろなものを積み重ねて、とにかく前進していくらと思っております。人間年をとるのも、悪くないと思う今日このごろです。人は日に日に落ち着いてくるものです。しかし、毎日毎日を、大事にしながら生活しないといけません。たとえ一段の階段を上がってもいいのです。時には一段、時にはなにも上がらず、かと思えば、一日のうちに、二段も三段も上がる事だってあるでしょう。だから、人生はおもしろいと私は思っています。足をふみはずすことだってあるでしょう。しかし、またチャレンジする。そういう強さが、私たち人間だれもが必要ではないでしょうか。

さて、ここ、ひかり作業所の長所は何でしょう。やはり、なんといつてもアットホームな環境でしょうね。これによって私は、マイペースにやらしてもらい、常に鍛錬していくことができました。これからも、やはり鍛錬していくたいと思っております。そのおかげか、今では、自分のことを信じて、生活することができてきています。人間は、自分のことを信じられない、何もできません。やはり自分のことを信じてこそ、よりよい仕事もできてきます。だから私は、これからも、自分のことをより信じられるように努力していきたいと思っています。自分の力を信じて、これからも生きていきたいです。そのため、日夜力をつけて生活したいと思っています。ひかり作業所の皆さん、これからもよろしくお願ひします。

ファイト!



垣内 智子

ひかり作業所法人化設立おめでとうございます。私も負けずにがんばりたいと思います。



## 「ひかり作業所と出会って」

松本 伸二

少しおかしかった僕が、すごくおかしくなって病院に入院しました。まわりにはたくさんのおかしな人がいました。でも何故だか心が落ち着き、十年も長居してしまいました。すごくおかしな人はすごくやさしい人でもありました。ひかり作業所にはたくさんのおかしな人がいて、毎日、おかしな日々を過ごしています。おかしくなるとみんな笑います。だからひかり作業所は笑いで一杯です。でも作業所から一歩外に出ると、おかしなひとは変な人、アブナイ人と間違われます。だからなるべくおかしくても、おかしくないようなふりをして暮らしています。それがつらくなると自殺したくなります。

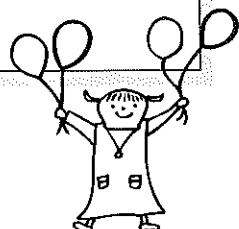
もしひかり作業所がなかつたら、一日、誰とも喋らず、笑わず、つらい日々を過ごさなくてはなりません。おかしくてもだいじょうぶと言ってくれる仲間は作業所にはたくさんいます。そんな仲間を大切にして、おもしろおかしく生きていきたいと思います。

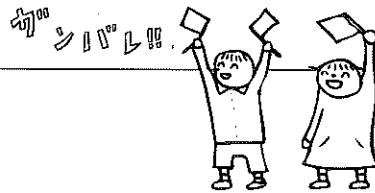


## 「ひかり作業所について」

楠木 淳子

4年前になるだろうか、その前の年の1年3回も入退院したため、主治医に保健所を通して、作業所へ行くようにすすめられた。すこやかセンターの職員と寒い中、保健所からふれあい会館まで歩いて行ったのをよく覚えている。1ヶ月の実習を経てメンバーとなり、パートタイムにつこうと活動するたび2回も入院してしまった。幸いにサポートしてくれるパートナーと出会い、九州・北海道と旅行にも行くことができ、今、作業所へは午前中だけ参加し、午後は自主活動している。今のような穏やかな日がいつまで続くかわからないが、作業所へ入り、ウツになった時は、朝、起きられず、つらい思いをした。躁になったら入院が待っている。作業所が法人化し、作業内容が充実し、年金と賃金を合わせて、最低限の生活ができるようになるのが、理想だが、むつかしいだろう。高齢化していく両親のことを思うと、今まで面倒見てくれた両親を介護できるようになったら、作業所も力になって欲しい。一人暮らしになつてもやはり力になって欲しい。詳しいことはわかりませんが、法人化になり作業所がよい方向に行くことを望みます。



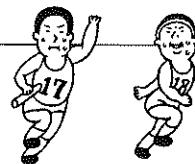


## 四年目に向かっての夢

木村 俊和

ぼくの四年目に向かっての夢は、就職です。ひかり作業所では、四年目に入ります。最初の一年目は、とてもつらかったです。一年目はみんなと慣れるのが難しかったです。二年目から、みんなとだんだんなれました。そして、みんなと親と妹がささえました。三年目は、仕事が楽になりました。

四年目にはいる今は就職をする夢に向かってがんばっています。就職したら休み以外は、休まずがんばって、やります。ひかり作業所へ来て本当によかったです。



## 今まで振り返って

M. Y.

私は、この法人化への作業所の移行の記念として稿を起こすことにしました。大学を卒業、就職だけはしましたが、この間に厚生年金の満期となる二十五年をきった三十五歳で社会へ復帰することを諦めました。その後、車でぶらぶらして二、三年を経てソーシャルクラブを先生に紹介していただき初めて会った保健婦さん、作業療法士さんの暖かい愛情に、初めて自分は病気で今まで病識がなかったのだと感じました。そして「病気になったのだから薬を飲まなければならないのだ」と思いました。父親が、肝臓を悪くしたときに、私に諭すように「病気になったのだから自分は、薬を飲む。」と言っていた事を思い出していました。以後私は、納得して薬を飲むようになり、週に一度のソーシャルクラブが大変待ちどおしい楽しい療養の場となりました。それでもその時だけは平和でも、他の日はやはり車に乗って外に出していました。温水プールへダイエットのために泳ぎに行ったり、スポーツセンターに行ったりする以外は、ぶらぶら遊んで、幻聴に悩まされ、周囲の車、人と戦争の日々でした。そのうちソーシャルクラブに積極的に参加するようになり、見る見る意欲が出てきて、少しずつではありますが進歩していくたと私は思っています。そのクラブには、毎週火曜日には、午後からだけ来られる方々があり、それが作業所に通っておられる方々なのだと教わり、私も行ってみたり紹介してもらって、電話番号を教えてもらいました。

後はみなさんご存知の（AM.9：30～PM.3：15位）で休日、水曜日、日曜日、火曜日半ドンの生活に入っていきました。最初はみんなの話している事がよく聞き取れなかったり、攻撃的な感覚に襲われたけれど、とにかく出口はあるという確信の下、力一杯頑張って続けて取り組み、しばらくしてみんなともコミュニケーションをとるのに苦労するということはなくなり、多少精神的にも強くなつたかなと思っていました。そして私事ではありますが、年に1回か2回の友達との旅行、そして作業所からの春秋のバスツアーを励みにし、今度は少しづつでもよいかから薬を減らして（私はみんなの平均よりもかなり多くの量の薬を飲んでいます。）いきたいと思っています。

強い薬なので体力の消耗、大変な肉体へのダメージを僅かでもよいから、緩和して、少しでも長生きしたいと思っています。PS。私は去年の九月で作業所通所が五年目に入っています。これからも、法人化で様子が変わってもメンバーと指導員さんとで力を合わせて、素敵な社会福祉法人「ふれんず」ひかり作業所にしていきましょう。

